

呼吸器内科シニアレジデントプログラム

1. 診療科の特色とスタッフ紹介

1) 診療科の特色

- ・呼吸器外科との枠を取り払って診療にあたっているため、外科的症例を担当して手術に参加することが可能
- ・早期から外来を担当するため初診患者の診察や安定期のCOPD・気管支喘息患者の診療に携わることができる
- ・日常診療と並行して肺音解析や呼吸リハビリテーションの生理学的評価などに関する臨床研究を行っており、学会での症例発表や論文執筆も積極的に行っている
- ・外部から講師を招いての講演会を年に数回開催している
- ・呼吸器内科研修期間中に他科（総合内科や麻酔科、救急科など）での研修や他施設での短期研修も積極的に勧めている

2) スタッフ紹介

長坂行雄：洛和会京都呼吸器センター センター長 日本内科学会認定内科医／指導医、日本呼吸器学会専門医／指導医、日本感染症学会認定医／専門医／指導医、日本アレルギー学会認定医／専門医／指導医

土谷美知子：呼吸器内科部長 日本内科学会認定内科医／総合内科専門医／指導医、日本呼吸器学会専門医 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会代議員

坂口 才：呼吸器内科医長 日本内科学会認定内科医／総合内科専門医／指導医、日本呼吸器学会専門医

中西陽祐：呼吸器内科医員、日本内科学会認定内科医

味水 瞳：呼吸器内科医員

森川 昇：シニアレジデント 3年次

3) 診療実績（平成27年度）

年間入院患者数 540名

年間気管支鏡検査数 177件

2. 研修期間

卒後3～5年の3年間。

研修期間中に他の各専門科をローテーションすることも可能です。

3. 目標

呼吸器疾患の多角的な理解を深め、呼吸器の専門医としての臨床能力を身につけると同時に、チームの一員として後進に対し適切な教育・指導ができる専門医を目指します。また、学会発表や論文執筆を通して学術的知識の習得・向上も目指します。

個別目標

1) 呼吸器疾患の画像診断、気管支鏡検査、胸腔穿刺・ドレナージ、NPPVを含む人工呼吸管理が行え、指導ができるようになる。

2) COPD患者の病期分類、吸入療法、呼吸リハビリ、栄養補助、禁煙指導などの一連の

治療が行える。

3) 気管支喘息の急性増悪時の対応と、安定期の喘息日誌、ピークフロー測定による自己管理の指導ができる。

4) 肺癌患者に対して、臨床病期、年齢、肺機能などに応じて、化学療法、手術療法、放射線療法を選択し、集学的療法が行える。癌告知時の患者、家族への対応ができる。疼痛管理を中心とした緩和療法ができる。

5) 肺炎などの呼吸器感染症に対する病原菌の同定と的確な化学療法が行える。

6) びまん性呼吸器疾患に対する気管支鏡検査または胸腔鏡下肺生検を含めた診断と治療ができる。

7) 年に2回以上の学会発表と研修期間中に1本以上の論文執筆を目指す。

4. 呼吸器科週間予定

月曜日：8：30－9：00 放射線治療科合同カンファレンス

呼吸器外科手術への参加

火曜日：13:30－15:00 呼吸器外科・内科合同カンファレンス

水曜日：呼吸器外科手術への参加

17：00－17：30 抄読会

18：00－18：30 リハビリカンファレンス

木曜日：午前中に京大呼吸器内科カンファレンスへの参加（交代制）

13：00－ 気管支鏡検査

金曜日：9:30－病棟カンファレンス

13:00－気管支鏡検査

16:30－放射線科合同カンファレンス

17:30－薬剤説明会

5. 修了後の進路

1) 呼吸器内科スタッフとして採用を推薦します。

2) 希望者には、関連大学（京都大学呼吸器内科）での研究、大学院の斡旋も可能です。

3) 全国の基幹病院呼吸器科への赴任などの相談にも応じます。